

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		11 03 03	中期総合計画主要施策番号		3-09,5-09	担当課	部・課	建設部 道路管理課	
事業名		道路橋梁補修事業(公共【道路管理】)					内線	3399	
							E-mail	michikanri@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	橋梁の耐震補強を行い災害時の防災活動支援ルートを確保するとともに、今後増加する老朽橋を計画的に補修し、道路利用者の安全を確保する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・緊急輸送路の橋梁及び跨線・跨道橋で耐震補強が未対策のものが、平成20年度末で69橋ある。 ・老朽、破損し補修が必要な橋梁が、平成20年度末で1000橋以上ある。また、今後施設の高齢化と老朽化が急速に進むことが予想される。(橋の高齢化率(50年以上経過):現在15% 10年後46%(H19末時点)) [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・地震や老朽化による落橋は、長期間の通行不能を発生させ、経済や住民活動に著しい支障を与える。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・震災対策緊急輸送路(第一次)に係る橋の耐震補強を優先的に進める必要がある。 ・老朽化した橋梁を計画的に修繕し良好な交通を確保する必要がある。							
		事業内容	橋梁の保全 ・防災時の防災活動支援ルートの確保するための耐震補強工事 ・老朽化・損耗による劣化進行を抑制するための予防修繕及び破損部等の補修・補強工事 ・国補道路補修事業(補助率【国】1/2、【県】1/2) ・国補災害防除事業(補助率【国】1/2、【県】1/2) ・地方道路整備臨時交付金(補助率【国】5.5/10、【県】4.5/10) ・地域活性化自立交付金(補助率【国】4.5/10、【県】5.5/10)						
			実施期間	S31 ~	根拠法令等				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価
震災対策緊急輸送路(第一次)に架かる橋の震災対策を行い、緊急輸送路の信頼性を確保する。(平成24年度までに整備率を100%にする。)		震災対策緊急輸送路(第一次)に架かる橋の震災対策を行い、平成24年度の目標達成に向け、整備率を79%まで増加させる。			整備率は84%で、期待を上回る成果があり、平成24年度の目標達成に向けて順調に推移している。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	1,959,459	1,120,430	1,370,000	国庫・県庫	公共	
	決 算 額 (B)		千円	1,426,114	1,248,002		実施方法	直接	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	224,185	46,066	20,986	歳出節別内訳等	H20予算現額(最終予算額+繰越額) 1,653,775 千円	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	20.00	20.00	15.00	(単位: 千円)	1箇所当たり平均工事期間 4.0 年	
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	1,426,114	1,248,002	1,370,000				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	耐震補強箇所完了数(一次緊急)		橋	89	98	109	平成20年度に完了した橋梁10橋		
	耐震補強箇所の対策率(一次緊急)		%	76	84	93	耐震補強箇所の対策率(全体)70%		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・大規模地震の逼迫性が指摘されるなか、緊急輸送路の確保は依然として重要課題である。また今後老朽橋梁は急激に増加する。 ・道路法で道路管理者である県が行うものとされている。 ・耐震補強と、老朽修繕を効果的に実施し、引き続き有効性を維持する。 ・重点化を継続実施し事業効果を早期発現させる。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・耐震補強の未対策箇所について、今後も緊急度の高い箇所から順次対策を継続する必要がある。 ・橋梁の長寿命化修繕計画に基づき、予防修繕及び破損部等の補修・補強を効果的に進める必要がある。							